

あおなみ-Blue Wave-

学校ホームページはこちらから→



ノーベル賞

今年のノーベル賞受賞者が発表されています。先日も生理学・医学賞や化学賞を日本人が受賞しました。

日本人のノーベル賞受賞は 1949 年の湯川秀樹博士が物理学賞を受賞したのが初でした。その後 1950 年代 0 人、1960 年代・1970 年代・1980 年代が各 2 人、1990 年代 1 人でした。

ところが。2000 年代に入ると 7 人、2010 年代 12 人、2020 年代 2 人と 1 団体と受賞者数が激増します。

私見ですが、これは日本の学術レベルが世界に認められてきたからではないかと思います。また、ノーベル賞を受賞されるような方々がどのような幼少期を送られたか関心がわきます。

幼い時から優れた力を発揮されていたのか、努力の賜物なのか、おそらく後者の色合いが濃いのではないかと思います。

私たちは、学術やスポーツ、芸能などで素晴らしい賞を受賞された方々の業績をみて、羨望のまなざしを向けることがあります。しかし、その結果に至るまでの過程を顧みることは少ないのではないのでしょうか。

結果は努力の結晶です。昨今の風潮に、努力することなく結果だけを求めていることを感じる場合があります。

「努力に勝る天才なし」。いつの時代にも通じることだと思います。

諫早市制 20 周年

先日諫早市制 20 周年の記念式典に参列してきました。2015 年に 1 市 5 町が合併して今の諫早市となったわけですが、20 年前の小長井小学校の児童数は 279 人で 3 年生だけが 1 クラスで他の学年は 2 クラスでした。しかし、3 年生も 44 人で現在の学級編成の規定にあてはめると 1 クラス 22 人の 2 クラスになります。参考までに一番多かった学年は 6 年生で 53 人でした。

また記録を見ると、当時の長里小は 100 人、遠竹小は 68 人でした。3 校で 447 人の小学生がいたことになります。現在より約 300 人多かったのですね。この先の 20 年間でどのような小学生の数の推移があるか未知数ですが、子どもにとって「通いたい学校」であり続けたいと思います。